

部活と私
～深くて広い人付き合い～

1512360 松山 彩夏

私は少林寺拳法部に所属している。この部活を選んだ理由は大学で新しいことに挑戦したかったからだ。また、今までこれといって自分に自信を持てることがなかったため、何か特技を身につけたかったのだ。自分は器用な人間ではないので新しいことを習得するのが苦手である。それでも大学生のうちになんか熱心に取り組んで自分に自信を持てるようになりたかった。そんな思いだけで入部を決めた部活だったが、日々の練習や大会・合宿などの行事を通して仲間と語り合いケンカもして絆が深まり、部活で何かを身につけること以上に大切なことがあると実感できた。そして気の合う同学年の仲間やいつもは優しいが時には厳しい尊敬できる先輩達、よく出来るかわいい後輩達に恵まれ、今では部活が私にとってとても居心地の良い大切なコミュニティになっている。

私たちは1回目の取材散歩で駅前に行った。駅に入っている飲食店で軽食を取り、お互いのことを少し話した。私は先月まで自宅生だったので毎日のように駅を利用していた。話し合い相手に選んだ彩華さんも自宅生なので、彼女と2人で駅前の店を利用することがよくあった。そのため、今回いつもとは違うメンバーで駅を訪れたことはすごく新鮮だった。2回目の取材散歩ではボウリングセンターに行った。そこはボウリングがしたいということで選んだのだが、実は私にとっては少し思い入れのある場所だった。初めて部活の2次会に参加した際に訪れた施設だったのだ。つまり、私が選んだ部活というコミュニティのメンバーで初めて遊びに来たところなのだ。その時以来遊びに来たことがなかったので今回授業として、その時は全く予想もしなかった4人で遊びに行けたことは感慨深いものがあり、また月日が流れるのは早いと感じた。この2回の取材散歩で自分のコミュニティのことを少しは紹介できたと思う。さらにこれがきっかけでグループメンバーと打ち解けられるようになったとも思っている。

私が話し合い相手に選んだのは部活で演武のペアを組んでいる武田彩華さんだ。彼女も私と同じくこの部活の幹部になったばかりである。今までは先輩の言うことを聞いて練習にだけ精を出していればよかったが幹部になったからには部員をまとめるだけでなく様々な手続きもしなければならない。まだ互いに慣れないことが多く、何でも相談して幹部全員で協力しながら仕事に取り組んでいる。そんな彼女との出会いは学部内の新歓の時だった。その時はまだ、部活の中の女子は私1人だけだったので必死に色々な女子に声をかけて部活に入ってくれるよう勧誘していた。多くの人の反応がいまひとつだった中で彼女は興味を持ってくれた様子で、とても話しやすい印象を受けた。そして1日見学に来ただけで彼女は入部を決めてくれた。それから帰る方向も同じだったので話す機会も多くなり、すぐに意気投合した。彼女のおかげで、それまで馴染めなかった同学年の男子とも仲良くなることができた。最初は技の練習でもお互いに気を遣っていたが、今では良い意味で気を遣わなくなった。私が部活を居心地の良い場所だと思えるのは彼女の存在があるからだと思うので、彼女を話し合い相手に選んだ。

まず、彩華さんがこの部活への入部を決めた理由について聞いてみた。もともと武道に興味があり、何かしらやってみたいと思っていた時に先輩から少林寺拳法部を勧められたそうだ。そして同じ頃に私が勧誘していたので、すぐに見学に来ることになった。私はこの見学の日の帰りのことをよく覚えている。大学から駅までの帰り道の間中、お互いに部活の楽しさを語り合った。今でこそ部活の大変さを感じたり、楽しいことばかりではないと思うこともあるが、この頃はただただ部活が楽しかった。彼女が一番思い出に残っていることも聞いてみた。それは私と同じで、合宿で香川に行ったことだった。少林寺拳法の本山が香川県にあり、年に2回全国の大学生を対象とした大がかりな合宿を行っているのだ。飛行機で行くとお金がかかるため、レンタカーで車中泊をしながら香川まで行った。香川までの長旅、初めての四国、また全国各地の大学生との交流など、彼女にとってこの合宿は新鮮な経験の連続だったそうだ。今までで一番嬉しかったこと、また悔しかったことも尋ねてみた。嬉しかったことは、私と演武のペアを組んで大会に出たことで、今後お互いに成長しながら大会に臨める状況にあることも嬉しいと語ってくれた。悔しかったことは、練習に身が入っていないと指摘されたこと、大会でベストな演武ができなかったことだった。これから頑張っていきたいことは先輩としての自覚を持ち、周囲に対する気遣いや礼儀にも気を配れるようになることだそうだ。今月は全国大会、東北大会と大会が2つあるということもあり、最後に私との演武練習で思うことがあれば何か教えてほしいと頼んでみたところ、私は気になるところがあると本当に一直線で、そういうところを自分も見習いたいと言ってくれた。更に、私たちはお互いに集中力が切れやすいと思うから集中力を持続できるようにしたいと語ってくれた。彼女が最後に私との演武はすごく楽しいから、来年も同じように部活を続けたいと言ってくれたことが私にはすごく嬉しかった。彼女も私と同じように部活に対して色々な思いを抱いているので、この授業のような機会以外でもお互いの思いを語り合うことがよくある。本当に何でも話せる関係だが、今回改めてこうして彼女の考えを聞くことができすぎて良かった。

私は昔から少ないコミュニティの中で生活していた。どういうことかと言うと小学校の時はスポ少やクラブなどの団体には一切所属しておらず、中学で義務になって初めて嫌々少ない選択肢の中から入部する部活を選んでいった。私の周りの多くは小さい頃から学校以外のコミュニティにも所属していて、そこは彼らが生き生きしているところだった。私はそんな彼らにあこがれを抱く半面、自分が新たなコミュニティを作ることは臆病だった。それでも歳を重ねるにつれて多くの人と知り合い、様々なコミュニティに所属するようになって思うことはやはり大学の部活というコミュニティが一番大切だということだ。この部活のおかげで新たに知り合いになった人や他の団体が数多くある。自分に大切なコミュニティが1つでもあれば、そこから人間関係がさらに広がっていくのだと実感した。私にとって部活は自分を成長させてくれるだけでなく、人々と深くて広い交友関係を築くことができる大切なコミュニティなので新たに入部してくる人たちにもそう思ってもらえるよう、雰囲気の良い部活づくりをしていきたい。

この授業を通して、「コミュニティ」「コミュニケーション」というものが私たちの生活とは切っても切れないものであり、自分が楽しいと思えるコミュニティを1つでも多く作ることで人生が楽しくなると考えるようになった。また、そのコミュニティの存在は自分自身を成長させてく

れ、私たちに生きがいを与えてくれると実感した。

このクラス・このメンバーで自分のコミュニティについて語り合うことで、自分にとってこのコミュニティがどれほど大切なのかを客観的に考えることができた。このことはとても良い経験になったと同時に、このメンバーで授業することがとても楽しかった。初めは不安もあったが、今ではこの授業が終わってしまうことが少し寂しいと感じている。この授業のおかげでまた1つ新しいコミュニティを作ることができ、そのコミュニティを楽しいと思えたことはすごく良かった。この活動をしたことで、授業以外でも自分で新しいコミュニティを作りその中でコミュニケーションを取ることに積極的になれたと思う。